

2023年9月24日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

申命記 5 : 12～15

マルコによる福音書 16 : 1～7

「安息日」(第四戒)

(ハイデルベルク信仰問答 十戒について 問 103)

※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【招詞】詩編 33 : 1～5

【讚美歌】27「父、子、聖霊の」

【詩編交読】詩編 38 編

【赦しの宣言】イザヤ書 55 : 7「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】206「七日の旅路」

【祈祷】

天の父なる神さま

今朝も、わたしたちに新しい命、新しい主の日を備えてくださり、一人一人の名前を呼んで、この礼拝に招いてくださったことを、心から感謝いたします。

これから共に、聖書の御言葉を聞きます。聖霊なる神さまが、語る者、聞く者に豊かに働いてくださり、わたしたちの目を、耳を、心を開いてください。そして、御言葉を通して、あなたの御心を、深く知ることが出来ますよう、導いて下さい。この礼拝にあって、生きておられる救い主イエスさまとの交わりに与かり、わたしたちの信仰がいよいよ励まされ、強められますように。そして、聖霊によって新しくされて、また新しい一週間を歩み出す者とならせて下さい。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【聖書】申命記 5 : 12～15

マルコによる福音書 16 : 1～7

【説教】「安息日」

<安息日>

今、わたしたちの教会の礼拝では、『ハイデルベルク信仰問答』を元に聖書の御言葉を聞いています。今日はその中の「十戒について」の、「第四戒 安息日を心に留め、これを聖別せよ」という戒めのところです。

今日はこの「安息日」について、聖書から詳しく御言葉を聞きたいと思います。

さて、礼拝を守る日曜日のことを、教会では「安息日」ということがあります。安息というのは、日本語の辞書を調べると「やすらかに休むこと」とあります。ですから安息日は、やすらかに休む日、ということです。

これは、ユダヤ人たちが守っていた、ユダヤ教の安息日に由来しています。「安息日」の元のヘブライ語は、「シャブバート」という言葉で、本来は「やめる、止める」という意味です。つまり、仕事をやめて休む日、ということです。

この、安息日を聖別して、守りなさい、大切にいなさい、ということが、十戒の第四戒で定められています。ですから人々は、安息日には、日常の働き、仕事、営みを全てやめます。

そして、仕事をやめて何をするかということ、みんなで集まって、神さまの御前に出るので、そして、神さまを礼拝する。これが安息日です。

この安息日の意味は、キリスト教の教会でも、根本的に変わっていません。安息日は、イエスさまを信じている者たちが、日常の働きや歩みを止めて、共に神さまの御前に集い、神さまに礼拝をささげる日です。今日の、今この時が、まさにそうです。

十戒の、第四戒には「安息日を心に留め、これを聖別せよ」とありました。

聖別というのは、聖いものとして別ける、という字を書くように、神さまのものとして特別に取り分ける、という意味です。

わたしたちは、一週間の中から日曜日という一日を、神さまのものとして大切に切り分け、神さまにささげます。そして、自分自身も礼拝に集うことで、自分の時間と、自分の場所とを聖別し、自分を神さまのものとしてささげます。

こうして、この日を特別に、神さまと共に過ごす日とするのです。

<休みがない？>

ところで、わたしが働いていた時。わたしがクリスチャンで、日曜日は教会へ行っている、ということをお話すると、友人や知人は、「せっかくの休みなのに、毎週教会に行かないといけないの？」とか、「お休みの日がなくなっちゃうんだね、大変だね」と、言いました。

確かに、安息日の意味を知らなければ、せっかく休みの日曜日が、教会に行くことで潰れてしまう、余計な労力を取られてしまう、と思うのかも知れません。

でも、本当にそうなのでしょうか。日曜日に教会に来ることで、休みがなくなってしまうのでしょうか。平日働いて、疲れて、さらに日曜日に教会に行かなければならなくて、さらに疲れるだけなののでしょうか。それなら、そもそも教会には誰も来ないと思います。

毎週、多くの方々が日曜日に教会に集い、神を礼拝しているのは、この日が安息日、「やすらかな休みの日」と言われているように、教会に来て、神さまを礼拝することで、むしろ本当の安らぎを得るからです。心も魂も休むことができます。神さまによって、深い本当の癒しを与えられ、慰めを与えられ、新しい力をいただくことができます。

だから、むしろわたしたちは、この日を待ち望んで一週間を過ごし、日曜日になったら、喜んで神さまのもとに集ってきます。そしてまた新たな力を得て、教会から出発し、それぞれの持ち場につくのです。

ですから、クリスチャンの人にとっては、日曜日の礼拝なしに一週間を歩まなければならないことの方が、却って大変なことになると思います。

そのように安息日は、わたしたちが神さまのもとで、本当の安息と、新しい力を与えられるために、神さまが備えて下さった日なのです。

<安息日の理由>

では、神さまは、何とってわたしたちに安息日を備えてくださったのでしょうか。

安息日の根拠は、旧約聖書の「十戒」にあります。実は出エジプト記と申命記で、少し安息日の理由が違ってきます。どちらかが間違っているということではありません。どちらの理由も、本当です。

[①創造の御業を覚えて]

まず、出エジプト記の方は、『ハイデルベルク信仰問答』が「十戒」をそのまま引用していますので、そちらを先に見てみましょう。これは「日々の祈り」のところに載せました。一度読んでみます。

「安息日を心に留め、これを聖別せよ。六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべての者を造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである。」

ここに、安息日が与えられた理由として、「六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである」とあります。

つまり、出エジプト記では、安息日を、神さまの創造の御業の完成、またその祝福と恵みを覚えて、七日目に休まれた神さまと共に安息にあずかる日、としています。

創世記の1章に語られているように、神さまは六日の間に、この天と地と海とそこにあるすべてのもの、そして人間を、創造されました。そして、それをご覧になり、「極めて良かった」と言われました。神さまは、お造りになったこの世界とわたしたちを、良いものとして受け入れ、祝福して下さったのです。

特に、世界の中で、一番最後の六日目に造られた人間は、「神のかたちに似せて」造られた、とあります。「神のかたち」というのは、見た目のかたちと言うよりも、神さまに応答することが出来るかたち、神さまの呼びかけにお応えし、共に生きる存在として、人間が造られた、という意味です。

人は、神さまの呼びかけにお応えして、神さまを賛美し、礼拝し、神と共に生きるものとして造られました。それが、人間の本来の姿であり、人間が造られた目的です。

ですから人間は、六日目に造られて、その翌日の七日目、次の日にはまず、祝福の内に、神さまとの交わりの一日を過ごしたのです。

ですから安息日は、わたしたちが、神さま創造の恵みに感謝し、神さまを賛美し、礼拝し、神さまと共に親しく過ごす日として、神さまが定めて下さったのです。

[②奴隷からの解放を覚えて]

さて、安息日の戒めのもう一か所は、今日読まれた旧約聖書の申命記 5:12~15 です。こう語られていました。

「安息日を守ってこれを聖別せよ。あなたの神、主が命じられたとおりに。六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、牛、ろばなどすべての家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。そうすれば、あなたの男女の奴隷もあなたと同じように休むことができる。あなたはかつてエジプトの国で奴隷であったが、あなたの神、主が力ある御手と御腕を伸ばしてあなたを導き出されたことを思い起こさねばならない。そのために、あなたの神、主は安息日を守るよう命じられたのである。」

つまり、申命記の方は、神さまがイスラエルの民を、エジプトの奴隷とされていた中から救い出し、導き出し、解放してくださった。その救いの恵みの出来事を思い起こすために、安息日を守りなさい、と言っているのです。

ですから、安息日はイスラエルの民にとって、創造して下さった神さまの祝福と恵みの中で、神さまと親しく交わる、礼拝の日であり。また、神さまが救いの出来事を実現して下さったことを思い起こし、その恵みに今、生かされていることを確かにされる日なのです。

<キリスト教会の安息日>

さて、それでは、その旧約聖書にある、イスラエルの民の十戒を、わたしたちの教会はどのように受け継いでいるのでしょうか。これは旧約聖書の戒めなので、今を生きる、キリスト教のわたしたちに関係ない、ということはありません。最初に申し上げた通り、わたしたちの教会も、この十戒の戒めを受け継いで、七日に一度、日曜日を安息日として神さまを礼拝する、そういう信仰の生活のリズムを大切に守って生きているのです。

しかし、実は、大きな違いがあります。旧約聖書の出エジプト記や申命記には、「六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない」とあります。

つまり、七日目が安息日。今でいう土曜日が、仕事を休み、神さまを礼拝する日なのです。いまでもユダヤ教の方たちは、土曜日を安息日として守っています。

でも、わたしたちキリスト教の教会では、日曜日。つまり、週の初めの日、第一日目を安息日としています。それは、どうしてなのでしょう。

わたしたちキリスト教会は、旧約聖書の時代に、天の父なる神さまが、イスラエルの民に約束された、すべての人を罪から救うために遣わして下さる救い主、メシアが。まさに 2000 年前に、この地上にお生まれになり、十字架に架かって死に、そして復活なされた、神の御子イエス・キリストである、ということを感じています。

なぜ、わたしたちには、救い主が必要だったのか。先ほどお話しましたように、本来人間は、神さまと共に生きる者として、「極めて良いもの」として、祝福の内に創造されました。神さまと向かい合い、神さまと共に生きることが、神さまに造られた人間の本来の姿だったのです。

しかし人間は、神さまの望んでおられることよりも、自分の心の望みに従うようになり、神さまから離れ、神さまとの関係を破壊し、やがて隣人とも共に歩めなくなりました。

こうして、本来向くべき神さまの方を向かなくなってしまうことが、聖書が言うところの「罪」です。「罪」は聖書では「的外れ」という言葉です。神さまから逸れる。離れる。この罪に、すべての人が捕らわれています。こうしてわたしたちは、罪によって、神さまの呼びかけに応えなくなった。「神のかたち」を失ったのです。

そして、神さまの方を向かないわたしたちは、思い思いの方向に、自分勝手に、自己中心的に歩くようになり、隣人ともぶつかり、共に生きられなくなったのです。

でも神さまは、人間をこのような罪に捕らわれたままにはなさいませんでした。神さまは、お造りになった人間を、深く愛しておられたからです。ですから、そのまま滅びて、死んでいくことをよしとせず、人間を罪から解放し、神さまの許へ立ち返らせ、新しい命を与えて、神さまと共に生きることが出来るように、救いの道を備えて下さいました。

その救いのご計画を実現するために、神さまは、イスラエルの民を選ばれました。彼らはエジプトで奴隷となり苦しんでいましたが、そこから救い出し、解放して下さいました神さまは、このイスラエルの民の中に、救い主を遣わし、世のすべての人々を救い、祝福する、と約束して下さったのです。

これが、旧約、つまり古い契約であり、旧約聖書に書かれていることです。

そして、その約束の通り、イスラエルの中から、神の御子イエスさまが、まことの人となってこの世にお生まれになりました。

イエスさまは、わたしたち人間の罪をすべて背負い、わたしたちの代わりに十字架に架かって死んで下さいました。そして、三日後に、死者の中から復活なされたのです。

この十字架と復活によって、イエスさまは、ご自分が、約束されたまことの救い主であることを、すべての者に示して下さいました。

このイエスさまの十字架と復活の出来事が、わたしの救いのための出来事であると信じ、心から受け入れるなら。神さまは、イエスさまによって、わたしの罪を赦して下さり、神さまと共に生きる命を与えると、約束して下さいました。

これが、新約、新しい契約です。このことを教え、また証言しているのが、新約聖書なのです。神さまとイスラエルの民との約束は、神の御子イエスさまによって完成され、すべての人への新しい契約として、今や差し出されたのです。

ですから、新しい契約にあずかった者、イエスさまの救いを信じた者にとっては、イエスさまの復活の日こそ、神さまがわたしを罪から解放し、救い出してくださった日です。

またそれは、罪を赦され、失った「神のかたち」を回復させられ、神さまと共に生きるわたしが新しく生まれさせられた日、新しい創造の日となったのです。

今日読まれた、新約聖書のマルコによる福音書 16:1 以下には、イエスさまが復活なされた日の朝のことが、こう語られていました。

「安息日が終わると、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。」(ユダヤ人たちの安息日が終わる、ということは、土曜日が終わったということです。)
「そして、週の初めの日の朝ごく早く(日曜日のことです)、日が出るとすぐ墓に行った。彼女たちは、『だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるでしょうか』と話し合っていた。ところが、目を上げて見ると、石は既にわきへ転がしてあった。石は非常に大きかったのである。墓の中に入ると、白い長い衣を着た若者が右手に座っているのが見えたので、婦人たちはひどく驚いた。若者は言った。『驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なされて、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおりに、そこでお目にかかれる』と。』

イエスさまの復活の日。それは、イスラエルの民がエジプトの国の奴隷から解放されたように、わたしたちが、罪の奴隷から解放された日です。

イエスさまの復活の日。それは、罪に捕らわれ、神さまと共に生きられなかったわたしたちが、罪を赦され、神さまと共に生きる者に、新しく造り変えられ、創造された日です。

イエスさまを信じるわたしたちにとっては、復活の日こそ、罪から解放して下さった、神さまの救いの恵みを覚える日。新しい創造を、感謝し、喜び、祝う、安息日なのです。

それで、教会のごく初期から、イエスさまを信じた者たちは、この週の初めの日、イエスさまの復活の日を「主の日」と呼んで、公にみんなで集まって、共に神さまに礼拝をささげてきました。

そして、新しい契約を受け取った者として、ユダヤ教の土曜日の「安息日」とは区別し、この週の初めの日を「安息日」として、教会は大切に、今日まで守ってきたのです。

<本当の安息>

安息日。やすらかに息つく日。救いを味わい、恵みを味わい、神さまと共にあることを、心から喜び、楽しむ日です。

ですから、休日だからといって、肉体を休めたり、遊びに行ったり、家でだらだら過ごすことが、わたしたちの休みになるわけではありません。

本当の休みとは、安息日とは、わたしたちがこの聖別された特別な日に、他のすべてを離れて、神さまとの交わりを、ひたすら味わう日のことなのです。

わたしたちの安らぎは、神さまと共にある恵みを味わい、経験するところにあります。わたしをお造りになり、愛してくださり、肯定して下さり、必ずその御手をもって救い、守り、導いてくださる、この神さまと共にあること。そこに、本当の安らぎがあるのです。

もちろん、わたしたちは平日を過ごす時も、一人一人、それぞれの場で、いつも神さまが共にいて下さいます。そこでもまた、いつも神さまの助けと恵みが注がれています。

しかし、この特別な安息日には、公に、兄弟姉妹が集まって、神さまの御前に一緒に立って、恵みを分かち合い、祈りを共にし、礼拝をささげます。

わたしたちは、共にイエスさまに救われ、共にイエスさまに結ばれた者たちの中であって、ここに、本当に、救い主であるイエスさまのご支配があること。イエスさまの救いの恵みに確かに生かされていることを、身をもって味わい知ることができるのです。

そして、救いを求めている方たちもまた、この公の礼拝の中に身を置くことで。神さまとの交わりに生きる者たちの中に、その身を置くことで。ここに生きて働かれる、まことの神さまとの出会いを、イエスさまを信じる信仰を、与えられていくのです。

<休ませてあげよう>

最後に、マタイによる福音書 11：28 に、イエスさまのこのような御言葉があります。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」

日々、重荷を負って歩むわたしたちの、疲れも、苦しみも、悲しみも、そして、なお繰り返してしまふ罪も、それらすべてをもって、わたしのところへ来なさい、とイエスさまは言われます。

この方は、神の御子でありながら、わたしたちと同じまことの人となって、この罪に満ちた、苦しみに満ちた地上を歩まれたお方です。わたしたちのあらゆる重荷をご存知の方であり、またそれらをすべて御自分の背に、その十字架に、引き受けて下さったお方です。

このイエスさまが、「休ませてあげよう」と言って下さいます。この「休む」という言葉は、英語の翻訳で refresh と書かれていることがあります。つまり、ただお休みする、というだけでなく、イエスさまのもとに来たなら、重荷を下ろし、御言葉をいただき、慰められ、癒され、強められ、新しくされるのです。体も、心も、魂も、わたしという存在全体がリフレッシュさせられる。元気づけられる。新しい力をいただけるのです。

そのような礼拝にあずかることこそ、わたしたちの、本当の安息日であり、生きる力の源なのです。

わたしたちは、安息日ごとに、神さまが共にいて下さること、罪を赦されていること、新しい命に生かされていることを、心に深く刻みます。イエスさまのもとで、重荷を下ろし、魂の疲れを癒され、慰められ、励まされ、イエスさまの御手に支えられて、また立ち上がります。そして、与えられた日々を、与えられた場所で、神さまを賛美しながら、祈りながら、次の安息日を心待ちにしつつ、大切に歩いていくのです。

【お祈り】 天の父なる神さま 御名をほめたたえます。

今日の主の日も、わたしたちを礼拝へと招き、あなたとの親しい交わりの中に置いて下さり、まことの安息に与らせてくださることを感謝いたします。

いつもの日々も、わたしたちはあなたの恵みに生かされているのに、あなたのことを時に忘れ、罪を繰り返し、重荷に疲れ、眩くことが多い者であることを、お赦し下さい。

どうか今日また、神さまのもとで、イエスさまのもとで、罪を赦され、安息を与えられ、聖霊によって、新たに造り変えられて、あなたに喜ばれる者として新しい一週間を歩いていくことが出来るよう導いてください。そしてまた、来る安息日に御前に集わせて下さい。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

【讚美歌】 205 「今日は光が」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】 天の父なる神さま。今日また、この礼拝で、罪の赦しと、神さまと共に生きる恵みを、新たにされましたことを感謝いたします。

しかし、この礼拝を覚えながら、病や、体の弱さのために、また仕事や、さまざまな事情のために、集うことが出来なかった、愛する兄弟姉妹を覚えます。どうか、それぞれの場にあっても、この安息日を覚えて、イエスさまの深い恵みに、共に癒され、慰められ、新しくされて、歩いていくことが出来ますよう、お支え下さい。

また、この礼拝に、新しく招かれた方たちを覚えます。どうぞ、あなたの御手に迎え入れ、祝福を注いで下さり、まことの信仰へと導いて下さい。この礼拝で、まことの生きておられる神さまと出会い、イエスさまの救いの恵みをいただいて、本当の安らぎを得ることが出来ますように。

そしてこの世には、あなたと共にある安息を知らない者があまりに多くおります。どうか、一人でも多くの者が、イエスさまの十字架による救いを知ることが出来ますように。あなたの愛を、あなたと共に生きる喜びを、知ることが出来るようにして下さい。

そのためにも、わたしたちが、今いただいている救いの恵みを、あなたが共にいて下さる平安を、日々の歩みの中で、隣人に証しすることが出来ますように。

そして、世に立てられた主の教会が、心からの礼拝をささげ、また福音を正しく、力強く宣べ伝え、あなたの伝道の御業に仕えていくことが出来ますよう、導いてください。

世界では、戦争が終わらず、今日も痛みや悲しみを覚えている人々がいます。また、大きな災害が起こり、生活もままならず、愛する人を失って嘆いている人々がいます。どうか、苦しみにある人々を、その国々を、助け、お守りください。また、その地にある教会を支えて下さい。また、わたしたちが、それらの人々を常に覚えて、執り成し祈り、わたしたちに出来る愛の業を、小さくても、始めていくことが出来ますように。

わたしたちが、あなたの御心を、自分の心とすることが出来るようにして下さい。

そして、神さまの御心が、この地になりますようにと祈り願います。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 28 「み栄あれや」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン